

バスケット試合会場

地元料理いかが

フェニックス・豊橋百農人

東三河地域を中心に地元産品のPR活動をしている若手農家グループ「豊橋百農人」と、東三河や浜松市などを拠点とする男子プロバスケットボールチーム「浜松・東三河フェニックス」は、試合会場で百農人が手がける料理の販売を今秋から始める。

発信力を強化したい百農人と、新しいファン層の獲得を目指すフェニックスの

思惑が一致した。「フェニックス楽市」は、ホームゲームで、百農人のメンバーが生産・加工した地元産食材や料理を販売。今秋に開幕する新リーグ「Bリーグ」会場での本格実施を目指す。

フェニックスの浜武恭生社長は「料理を目当てに来た人に、バスケットを見てほしい」。百農人の担当者も「全国に名をとどろかせる楽市にしたい」と意気込む。

現在開催中のbjリーグの試合会場で複数回、プレイベントを開く。初回は4

月3日午前10時から、豊橋市総合体育館の屋外に33店舗を出店。無料だが、試合観戦にはチケットが必要。